

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000190
法人名	(有)ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットぐんちゅう
所在地	伊予市米湊字西窪1131-3
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①開設当初に比べると要介護4・5の利用者が多く増えており、コミュニケーションも取りにくく介助も増えているが、一人一人が安心して穏やかに暮らせるように、スタッフ全員で考えて協力しながら支援している。②スタッフ一人一人の長所を活かし、生き生きと働けるような環境づくりをしている。スタッフは、声を掛け合い接遇に気をつけ、協力し合って仕事をしている。③かかりつけ医こどうクリニックとの連携を密にし、訪問診療を受けながら、医療面のレベルアップに努めている。気になることあれば、何でも相談できるようになっているし、こどうクリニック主催の勉強会には必ず1名以上参加し、知識を深めたのスタッフにも学んだことを伝えている。④近隣の方々とのつながりを大切に、近隣の方の写真の展示も続いている。伊予農生の園芸セラピーや傾聴ボランティアも何年か前より続いており、利用者様も満足している。⑤昨年より、実習生の受け入れあり。お互いに学ぶことを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設14年目と歴史があり、「悔いの残らないお世話をさせていただきます」という理念を基本として、職員は情報を共有しながら利用者の生活支援に取り組んでいる。業務のマンネリ化防止のため、会社内のグループホーム間での職場交流を実施しており、活性化にも繋がっている。管理者は日々のケアに心を配り、職員へ利用者との関わり方への助言や指導に力を入れているほか、日々の会話を重視し、話しやすい雰囲気づくりを心がけることにより、職員からも話しやすく意見を言いやすい状況ができています。職員から出された意見は会社の上層部へ届く仕組みがあり、検討された結果は職員へ報告している。また、高校生の園芸セラピーの訪問があり、利用者は楽しみにしている。運営推進会議には地域住民が複数参加するなど、認知症になった場合に頼れる事業所として認識されており、普段から訪問があったり、かぼちゃなどの差し入れをしてくれるなど、地域とのつながりが十分にできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ユニット ぐんちゅう

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)  
氏名 武智 美知子

評価完了日 26 年 10 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 第1理念として『悔いの残らないお世話をさせていただきま す』開設当初からの理念を大切にしている。地域密着型理念 として、スタッフ全員で考えて作った『その人らしく安心して 地域の中で馴染みのある生活を支援する』を目標として実 践に繋げるようにしている。</p> <p>(外部評価) 理念は共有スペースとスタッフルームに掲示され、名札の裏 にもはさみ、毎朝朝礼で唱和している。毎月、職員が提案し て事業所独自の目標も作成しており、日々の利用者支援に繋 がっている。目標の実行状況は職員が毎月自己評価を行い、そ の評価に関して管理者がコメントする流れができています。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 2カ月に1度の地域運営推進会議では、毎回、ご近所の方にも 参加して頂き交流を持つようにしている。地区の敬老会や集 会所での研修や集会に参加、地区の避難訓練にも参加した。</p> <p>(外部評価) 近所の方々への挨拶を心がけ、ボランティアの受け入れを積 極的に行っている。地元の伊予農業高校生の訪問が毎週あ り、利用者と一緒に野菜づくりをする園芸セラピーで交流し ている。運営推進会議には近所の方が複数名参加し、認知症 になった場合に頼れる事業所として認識されており、普段か ら訪問があったり、かぼちゃなどの差し入れをしてくれるな ど、地域とのつながりが十分にできている。地区の敬老会に 利用者が参加したり、利用者と一緒に地区の防災訓練に参加 したりするなど、管理者は地域とのつながりを重視してい る。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域運営推進会議等で参加者からの認知症に関する質問に答 えている。地区の行事に参加した時も、職員であることの自 己紹介をし、施設の紹介や認知症の人の理解を呼びかけてい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 市役所職員、区長、民生委員、家族他多くの方に参加して頂き、意見を聞いている。毎回、活発な意見が出てサービス向上に活かしている。特に避難訓練に関しては、度々参加して頂きながら、意見を参考にしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、区長、市担当者のほか、多くの職員のみならず近隣住民も多く参加している。普段の会議には利用者が参加することはないが、昼食交流会などと合わせて開催し参加できるようにしている。会議では、行事などの報告をするほか、感染症対策の講話を取り入れたり、避難訓練等と合わせて開催する工夫をしている。火災時の協力体制や事故防止など、参加者から意見をもらえる関係づくりがされ、日々の支援や災害に対する取組み強化に活かしている。管理者は普段の会議に利用者が参加し、意見交換ができることを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月、入居者、予約者状況を市役所の長寿介護課にメールしている。市役所からも文書にて情報が届き、不明な点は確認するようにしている。ボランティア状況も実績を知らせるとともに毎年、依頼している。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、意見交換をしている。市長寿介護課にはメールで入居状況や待ち状況などを毎月報告している。また、市ボランティアセンターには3か月に1回ボランティアの参加状況を報告している。さらに、市の徘徊ネットワークに参加し、協力をするなど関係機関との連携づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で何が身体拘束になるのかを確認し、やむおえない場合は、最小限になるようにしている。家族の了解をもらい、必要でなくなった場合は、早急に解除している。(現在は身体拘束なし)	
			(外部評価) 以前は衣類やおむつを脱いでしまう利用者がいたため、夜間のみつなぎ服を着用してもらうことがあったが現在はいない。身体拘束や虐待に関する研修会に参加し、職員へ伝達研修を行い、正しい理解に努めている。スピーチロックについては職員から意見を出し合い、気をつけた声かけなどを行っている。気になる行為や言葉づかいがある場合は、管理者等が個別に指導している。また、身体拘束排除マニュアルを作成し、拘束をしない事業所づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<b>(自己評価)</b> 研修会に参加した者から内容を他の職員に伝え、知識の向上、共有に努めている。利用者様の身体観察に努め、気になる点があれば、話し合い、改善に努めている。管理者は、普段から職員の悩みや不満を聞き、相談にのる等努めており、虐待に繋がらないよう気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<b>(自己評価)</b> 研修会に参加した者から内容を他の職員に伝え、知識の向上、共有に努めている。現在、独居の利用者様1名あり。遠縁はいるが、本人と当事業所にすべて任せるとの事。本人の希望通り、弁護士を立て、今後について話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<b>(自己評価)</b> 契約時には、利用者様と家族に契約書に沿って説明し、不安や疑問がないか確認をしている。十分、納得、同意の上、書面上により契約手続きを行っている。利用中に内容の変更があれば、その都度、変更内容と理由を説明し、理解の上、書面にて同意をとっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<b>(自己評価)</b> 地域運営推進会議、家族会、イベント、面会等の機会には、家族や外部の方と交流を持ち、意見を頂いている。閉鎖的にならず、より多くの方が気軽に来訪できるよう努めている。日々の生活の中でも、利用者様に困っている事、不安に思っている事がないか尋ねている。玄関に設置している意見箱も活用している。 <b>(外部評価)</b> 家族会があり、行事などがある場合には全員に呼びかけ、夏の夕涼み会には5名の参加があり、楽しみながら交流をしている。家族会や運営推進会議等の訪問時に、職員から声をかけて家族から意見を聞く努力を重ねている。毎月事業所便りに職員が手書きのお便りを添えて家族に送付し、利用者の近況を知らせている。また、意見箱があり、お礼の手紙が入っていたこともあった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は管理者会議の前には、必ず全職員に意見や提案を聞き、改善に向けている。必要時には職員の個別面談を設け、意見等を聞いている。毎日2回の申し送り時には、職員の意見、提案が良く聞かれる。管理者は、職員が自由に意見が出せれる雰囲気作りを大切にしている。  (外部評価) 職員の要望や意見は、月1回開催される管理者会議に報告して検討しており、その結果は管理者間連絡ノートや事務連絡ノートで伝達されている。伝達ノートの確認は、印鑑を押印することで、伝え漏れがないよう工夫している。本社の職員が定期的に訪れ、気軽に相談できる体制も作られている。また、職員の入社時には1か月かけて指導し、事業所等の研修に参加するなど、資質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 本社より、ほぼ毎日現場に入り、管理者や職員の勤務状況を見て、個々の努力、実績を把握している。職員が提出した研修や行事の報告書や自己評価から個々の能力を把握している。資格の有無にかかわらず、昇格できる体制や、評価された者に手当の支給あり。職員のやりがい・向上心を持って働ける環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 協力医療機関との連携で、医療に関する勉強会が多く行われた。なるべく違う職員が参加し、知識の向上に努めた。1ヵ月間の社内相互研修が行われ、参加した職員との互いの事業所のレベルアップが図られた。今後も継続予定である。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) GH協議会、ケアマネ協議会に加入し、研修会や行事には参加・交流を図っている。代表者は、社内3事業所の管理者と連携を密に取り合い、サービスの品の向上に繋げている。他事業所との相互研修に2名参加の機会あり。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前アセスメントで、なるべく多く情報収集をし、今までの生活となるべく環境変化が無いよう努めている。出来るだけ多くの時間をかけ、本人の気持ちに寄り添うよう支援している。家族の協力を得て、本人に不安や不満が無いよう、共に支援していく姿勢をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ケアマネ・家族・本人からの情報を直接会って話を聞いたうえで、要望を聞き、安心して利用していただけるように配慮している。利用料金・重要事項等、詳しく説明し同意を得ている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時もまず、1週間のショートステイを利用して頂き、本人・家族に納得をしていただいた後、入居するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自分で出来る事が、少しでも長く続くようにADLが下がらない様に、一緒に生活をしながら、やる気を持って生き生きと過ごしていただける様に心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面接時、暖かい雰囲気の中で過ごせるよう、環境を整えている。日々の様子を伝え、家族に安心して頂くと共に、同じ目標を持って本人と接するようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所への買い物の継続、地区の行事や敬老会に参加し、自宅への外泊・支援により少しでも、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所と、本人との付き合いが続けられる様努めている。	
			(外部評価) 公民館行事や敬老会、文化祭、運動会に参加するなど、地域とのつながりが十分にできている。近隣のスーパーに出かけ知人や友人と会うことも多く、近所の方々や知人の訪問時も快く対応している。利用者の知り合いが木の実を持って来てくれたり、地域の老人会長が月2回程度訪問され、利用者との会話を楽しんでいる。また、身寄りのない利用者と一緒に、お墓参りに行ったこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は、常に周りに目を配り仕事をしている。その中で、孤立せず利用者様同士が関わり合い、支え合えるように、配慮している。利用者様同士で違う立場や意見が生じた場合には、双方の意見を聞きながら、少しでも交流が出来るよう支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院した場合、必ず見舞いに行き、状態把握に努めている。又、本人や家族からの相談にも応じる様にしている。現在も、サービス利用が終了した家族のボランティア活動、手紙のやり取り、季節の風物詩の頂き物の交流あり。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、コミュニケーションを多く取り、一人一人の思いや、暮らし方の希望を把握している。会話が困難な利用者様の場合は、その人の言動を見逃さず、家族に伝え、相談し、本人本位の方向へ向かうよう支援している。  (外部評価) 日々の暮らしの中で利用者寄り添いながら、センター方式を部分的に活用し、今までの暮らしや思いを把握するようにしている。利用者や居室などで1対1となる場合に、思いを話されることが多い。利用者本人の言動を日々の記録に残し、伝達ノートを活用して、職員間での情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のシート活用により、本人や家族に聞きながら、把握に努めている。入居後の面会時には、なるべく多くの方から本人の生活歴やサービス利用にいたった経過等をプライバシーに配慮しながら情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式のシートの活用により、利用者様の思いを色々な方向から情報収集し、本人の望む1日の過ごし方に近づける様支援している。日々の生活の中で、野菜の皮むき・洗濯物たたみ・塗り絵・写字・歌等できる事の場の提供を行い、有する力の維持や新たな発見に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人がより良く暮らす為に、定期的に看護師・介護者を含めて担当者がカンファレンスを開いている。医療面・介護面・本人や家族の要望等の課題を話し合い、意見を反映し、ケアマネが介護計画を作成している。本人の状態が変化したり、退院後にも見直している。ケアプランには、本人・家族に説明後、同意を得ている。  (外部評価) 情報共有ノートや個人別ノートを活用し利用者の状況把握に努め、利用者や家族の意見を反映して介護計画を作成している。利用者1人につき2名の担当職員がおり、3か月に1回モニタリングを行っている。参加できない職員にも意見を聞いてもらい、6か月に1回日勤の職員でカンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。介護計画への家族の意見は、「お願いします」程度の意見が多い状況である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の日々の記録カルテに、利用者の状況・活動等記入し、職員間で情報が共有できるようにしている。記録カルテには、具体的な介護計画に添って、実践できればチェックを入れるようにしている。また、次の介護計画の見直しにも活かされている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 認知症対応型通所利用者1日3名まで受けている。現在に利用は1名だが、体調不良の為休んでいる。。本人、家族の意向をケアマネと連携し、問題に対応している。地域住民のボランティア活動が盛んに行われ、利用者様の生きがいや楽しみになっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的な地域運営推進会議では、地域住民・家族・民生委員等の意見を参考にして繋がりを大切にしている。園芸セラピー・傾聴・写真展示・紙芝居・歌や踊り等のボランティア活動が多く、交流を楽しむ事が出来ている。地域の理髪店や介護相談員の来訪あり。年2回の消防避難訓練では、伊予消防署の協力あり。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居前のかかりつけ医院との関係を大切にしている。入居 後、こんどうクリニック・笠置記念病院・いよ整形外科・砥 部病院・たきぐち歯科の協力医療機関があり、本人・家族が 希望する病院に受診出来る様、情報を提供、支援している。 宇都宮皮膚科往診・新歯科の訪問歯科がある。こんどうクリ ニックの定期的な訪問診療も行っている。</p> <p>(外部評価) 入居時に利用者や家族の希望するかかりつけ医を選ぶことが でき、入居後に家族の希望で変わることもある。家族の受診 介助を基本としているが、都合がつかない場合には職員が同 行する場合もある。協力医と連携が取れており、ほぼ毎日往 診して健康管理をしているほか、週2回歯科の往診があるな ど、利用者や家族には安心感がある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) バイタル測定を1日1回、必要に応じて2回行っている。ま た、食事・水分量・排便の記録を取っている。早期発見に努 めて、異常が見られたら看護師と相談し、主治医に連絡を 行っている。スタッフ・看護師間で情報共有ノートに記入 し、医療面・訪問看護面・居宅管理指導面で情報を共有して いる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、それまでの本人の状態やADLを医療機関に情 報提供している。定期的に見舞いに行き、その後の状態や情 報収集をしている。その都度、主治医や家族と連携を取り情 報の共有に努めている。退院時には、必要に応じて退院時共 同指導をし、医療機関から情報提供を受け、より良い介護支 援が出来る様にしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や終末期のあり方は、本人の病状・状態を家族に説明 し、本院・家族の希望を確認しながら、なるべく希望に添え るようになっている。段階ごとに本人・家族に意向の変化や方 向性の確認をしている。終末期には、主治医・ホームの看 護師・職員に連絡が出来る様、24時間体制が取れる様にし ている。</p> <p>(外部評価) 今までに2名の看取りを経験している。家族の希望がある場 合には同意を得て実施しており、家族と密接に話し合いなが ら付き添いなどの協力をお願いして看取りを行っている。2 名の看護職員がいるほか、協力医の看護師の協力が得られ、 職員は安心して対応することができる。また、「重度化及び 看取りに関する指針」を作成し、職員研修も実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定や日々の観察により、異常の早期発見に努めている。また、かかりつけ医院で行われる勉強会にも参加し、説明・報告書を出している。応急手当などは、看護師による指導や指示に従い定期的に行っている。消防署と地域で開催された救命・救急訓練に参加し勉強した。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 伊予消防署の立会いの下、年2回の避難訓練を行っている。今年は、初めて入居者にも実施日を伝えず、実際に起こりうる状況で行った。近隣の方々の参加も増え、消防員指導の下、消火訓練等も行い勉強している。「南海トラフ地震防災規定」を作成し、いざという時の為に訓練している。  (外部評価) ハザードマップなどを備え、年2回の避難訓練を運営推進会議と合わせて実施する工夫をしている。避難訓練には近所の方々にも参加してもらい、利用者の見守りやアドバイスももらっている。職員の緊急連絡網を作成し、近所の方々にも連絡できる体制づくりをしている。抜き打ちの避難訓練を実施するなど防災に対する職員の意識は高い。食料や水などの備蓄品を3日分用意している。また、会社に対して、避難経路にスロープの設置を要望している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様との接し方については、全職員が日頃から利用者様に対して尊敬の気持ちを持って接する様努めている。日頃より管理者から接遇の指導がある。入浴やトイレなどは特にプライバシーに配慮し、日々介護を行っている。個人を尊重し、本人の意思確認をしてから、ケアにあたる様心がけている。  (外部評価) オムツ交換や入浴介助時には、必ず戸を閉めて見えないように配慮し、トイレの声かけも肩を軽く叩き、小声で誘導をする配慮をしている。また、洗面所と脱衣所の間をカーテンで仕切り、見えないよう配慮している。日々の関わりにおいては、利用者を人生の先輩として尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の言動や表情に注意し、何を希望しているかを把握し、希望に添える様にしている。選択肢のある場合は、自己決定して頂ける様にし、遠慮がちな性格な方には普段よりコミュニケーションを取り、言いやすい雰囲気を出せる様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎朝の健康体操や、レクレーションへの参加等無理に勧めず、本人の意思に任せている。作業等を手伝って頂く時も本人の意気持を大切にしている。なるべく多くの利用者様に参加し楽しんで頂ける様に、日にちや時間をずらすなど工夫し、なるべく希望に添える様支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、入浴時等洋服を自ら選んで頂くようにしている。選択の困難な方は、スタッフと一緒に選んでいる。2か月に1回の散髪、毛染め他、毎日の整髪・髭剃り等身だしなみに心がけ、その人らしいお洒落が出来る様支援し、外出時には希望を聞きながら、特に時間をかけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むき・配膳の準備・盛付け・食後の食器洗い・テーブル拭き等出来る方は、普段からしていただいている。食材も利用者様一人一人に合わせた、食べやすい大きさにカットしたり、献立を一部変更したりしている。盛付けにも注意し、食べやすい様に工夫している。利用者様とスタッフが一緒に食事の片づけをしている。 (外部評価) 食事メニューと食材は外部業者に依頼し、事業所のキッチンで利用者に皮むきなどを手伝ってもらいながら職員が調理している。普通食以外に刻みやミキサー食にも対応し、利用者と職員が同じテーブルで会話しながら食事を楽しんでいる。また、食器の準備や後片付けなどを利用者にも手伝ってもらうなど、一緒に行うことを心かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の状態に合わせ、粥・キザミ・ミキサー食にしたたり、調理方法変える等工夫して、少しでも多く摂取できるよう配慮している。摂取量の少ない方には、定期的にエンシュアやラコールを飲んで頂いている。飲み込みの悪い方には、トロミを利用し水分補給に気を付けている。必要な人には、細かく水分量チェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後自分で行える方には、声掛け・セッティングを行っている。自分で行えない方にも声掛けにより、口を開けてもらうなど、少しでも出来る事をしてもらっている。常に口腔内の清潔を心掛けている。訪問歯科による口腔ケア実施が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) その時の状態に合わせて、なるべくオムツをしないでトイレで排泄ができるよう支援している。一人で出来ない方は排泄リズムを把握し、定期的に誘導を行っているが、トイレ動作の中で移乗やズボンの上げ下げ、手洗い等できる事を勧めている。</p> <p>(外部評価) 排泄のパターンは日々記録して見やすく工夫されている。日中はトイレに誘導し、排泄の自立に向けた取り組みに力を入れている。状態に合わせて、夜間にはポータブルトイレを使用する利用者が3名いる。立位が取れない利用者にも、2人体制でトイレへ移乗し、できる限り自立した排泄を支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎日の排便の有無・状態を確認・記録している。便秘時には、バナナやヨーグルト等を摂取して頂いている。必要時には、主治医や看護師に相談し、頓服の便秘薬を服用したり、薬の見直しを行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 週に2回、入浴の日を設け、利用者様の希望に添って、入浴・シャワー浴・清拭に切り替えている。又、体調不良の方でも、希望があれば清拭や足浴など行っている。希望に応じて同性介助にしたり、入浴剤を好みの物を選んで頂く等くつろいで入浴を楽しめるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 各ユニット毎に浴室はあり、週2回入浴できるよう支援している。便で汚れた場合など、必要に応じてシャワー浴を活用している。入浴を嫌う利用者には、声かけやタイミングなどを工夫しながら入浴を勧めている。また、浴槽には3種類の入浴剤を選んで入れることができ、入浴を楽しめるよう工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間の就寝時間の他に、本人の希望や体調を見ながら、日中に臥床の時間を取り入れている。又、利用者様がゆっくり休息や睡眠がとれるように照明や温度調節に気を配っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の活用により、薬の知識を増やしている。看護師が配薬を行い、適切に内服できているかスタッフ全員で確認し記録を付けている。本人の状態変化を主治医に報告し、必要に応じて薬の見直しがある。日常の記録をもとに内服困難な場合は、粉碎にする等、薬局への相談もしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食材切り、食事のセッティング、洗濯物干し等できる事をしている。気分転換に、中庭での散歩、ドライブに行ったりしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じとれる様に、花見物・神社への散歩やドライブに出掛けている。地域の敬老会に数名参加した。家族の協力を得ながら、病院受診・帰宅・外食・墓参り等、本人の希望を叶えている。 (外部評価) 天気の良い日は庭で日光浴をしているほか、週2回ドライブに出かけており、外出する機会が多い。参拝や花見、初詣、農業祭、ふれあい作品展など多様な場所に出かけられるよう支援している。最近の利用者全員で外出し食事をするなど、大掛かりな外出は少なくなっているが、夏祭りや花火の見物などはボランティアに協力してもらうことも多く、利用者と一緒に楽しんでいる。	利用者の重度化に伴い、行事を縮小化する場合があるが、事業所の行事などの質を高めるためにも、ボランティアの協力を得て、利用者全員と一緒に花見などができる外出行事等の実現を望みたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分自身で買い物される方は、現金を所持し、好きな物を買える様、買い物に付き添っている。家族管理の為、所持金がなく不安に思っている方には、立て替えで必要な物を買えることを説明し、安心して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を利用できる方は、居室から自由に自分でかけられる様支援している。電話使用が困難であったり、難聴の方でも、希望があれば取り次ぎをしている。年賀状のやり取りを行っている。また、家族からの手紙は、必要に応じて代読し伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎朝の清掃はもちろん、机の整理整頓や、トイレの汚れが無いよう特に気を付けている。居室の温度・湿度に気を付けている。また、利用者様が集まるホールには、一緒に作った、季節感のある掲示物を貼り、利用者様に楽しんで頂いている。玄関には、季節の花や風物詩を飾っている。必要時、天窓を開放し気持ち良く過ごせる。</p> <p>(外部評価) 平屋建ての事業所には天窓があり、光や外気を取り込む工夫をしている。クリスマスの飾りやいろいろな絵画等が豊富に飾られ、季節を感じることができる。玄関の写真は、近隣の愛好家が季節毎の風景を貼りかえてくれている。共用スペースにはソファが置かれているほか畳スペースもあり、くつろげる雰囲気となっている。日中、利用者は共有スペースや居室で自由気ままに過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 話の合う利用者様同士には、スタッフが座席の誘導を行い、会話を楽しんで頂いている。ホールには、1人用の椅子・2～3人用長椅子・ソファ・居間があり、その日、その時の気分で自由に過ごせるよう配慮している。喫煙者には、専用場所あり。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅にいた時の馴染みの物を自由に持参して頂いている。各居室には、利用者様の家族の写真を飾ったり、レクリエーションで作成した作品を飾り楽しんで頂いている。スタッフは、居室の整理等を行う際には、利用者様と相談しながら各利用者様が落ち着いて過ごせる居室になるお手伝いを行っている。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコン、電動ベッド、整理ダンス、ロッカーが備え付けられている。利用者自身の使い慣れたダンスや鏡台、アルバムなどを持ち込み、好みのポスターや絵画などを貼り、過ごしやすい空間づくりがされている。居室を職員と一緒に掃除する利用者もいる。また、各居室には電話もあるが、使用できる利用者は少ない。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 野菜の皮むき・食器の準備・盛付け・食後の食器洗い・テーブル拭き等が無理なくできるよう、椅子やテーブルを用意している。自室が分かる様に名札をつけたり、ダンスの整理ができる様、貼る紙をする工夫をしている。トイレや洗濯機の使い方の貼り紙あり。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000190
法人名	(有)ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットぐんちゅう
所在地	伊予市米湊字西窪1131-3
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①A棟の利用者に比べ、自分で判断し生活できる利用者が多いので、その能力を活かし、職員は自立支援に努めている。②職員は利用者とのコミュニケーションに努め、利用者の話を傾聴し、利用者の希望になるべく沿えるように支援している。③調理の下準備や洗濯準備等、できる利用者が数人いるので、持っている能力を十分発揮していただけるように努めている。できた場合には、感謝の気持ち・できたことへのねぎらいの言葉を伝え、自信につなげている。④職員は個人の長所を活かし、活き活きと働いている。⑤家族面会時、グループホームでの様子を伝え、安心していただいている。家族への毎月の便りや手紙他、コミュニケーションをはかりながら、関係を大切にしている。(他はA棟の記入欄と同じ)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設14年目と歴史があり、「悔いの残らないお世話をさせていただきます」という理念を基本として、職員は情報を共有しながら利用者の生活支援に取り組んでいる。業務のマンネリ化防止のため、会社内のグループホーム間での職場交流を実施しており、活性化にも繋がっている。管理者は日々のケアに心を配り、職員へ利用者との関わり方への助言や指導に力を入れているほか、日々の会話を重視し、話しやすい雰囲気づくりを心がけることにより、職員からも話しやすく意見を言いやすい状況ができています。職員から出された意見は会社の上層部へ届く仕組みがあり、検討された結果は職員へ報告している。また、高校生の園芸セラピーの訪問があり、利用者は楽しみにしている。運営推進会議には地域住民が複数名参加するなど、認知症になった場合に頼れる事業所として認識されており、普段から訪問があったり、かぼちゃなどの差し入れをしてくれるなど、地域とのつながりが十分にできている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 26 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ユニット ぐんちゅう

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)  
氏名 武智 美知子

評価完了日 26 年 10 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 第1理念として『悔いの残らないお世話をさせていただきま す』開設当初からの理念を大切にしている。地域密着型理念 として、スタッフ全員で考えて作った『その人らしく安心して 地域の中で馴染みのある生活を支援する』を目標として実 践に繋げるようにしている。</p> <p>(外部評価) 理念は共有スペースとスタッフルームに掲示され、名札の裏 にもはさみ、毎朝朝礼で唱和している。毎月、職員が提案し て事業所独自の目標も作成しており、日々の利用者支援に繋 がっている。目標の実行状況は職員が毎月自己評価を行い、そ の評価に関して管理者がコメントする流れができています。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 2カ月に1度の地域運営推進会議では、毎回、ご近所の方にも 参加して頂き交流を持つようにしている。地区の敬老会や集 会所での研修や集会に参加、地区の避難訓練にも参加した。 玄関を開放し、近所の方がいつでも面会の来れるようにして いる。</p> <p>(外部評価) 近所の方々への挨拶を心がけ、ボランティアの受け入れを積 極的に行っている。地元の伊予農業高校生の訪問が毎週あ り、利用者と一緒に野菜づくりをする園芸セラピーで交流し ている。運営推進会議には近所の方が複数名参加し、認知症 になった場合に頼れる事業所として認識されており、普段か ら訪問があったり、かぼちゃなどの差し入れをしてくれるな ど、地域とのつながりが十分にできている。地区の敬老会に 利用者が参加したり、利用者と一緒に地区の防災訓練に参加 したりするなど、管理者は地域とのつながりを重視してい る。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域運営推進会議等で参加者からの認知症に関する質問に答 えている。地区の行事に参加した時も、職員であることの自 己紹介をし、施設の紹介や認知症の人の理解を呼びかけてい る。温かい言葉かけをするように何度も伝えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 市役所職員、区長、民生委員、家族他多くの方に参加して頂き、意見を聞いている。毎回、活発な意見が出てサービス向上に活かしている。特に避難訓練に関しては、度々、参加して頂きながら、意見を参考にしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、区長、市担当者のほか、多くの職員のみならず近隣住民も多く参加している。普段の会議には利用者が参加することはないが、昼食交流会などと合わせて開催し参加できるようにしている。会議では、行事などの報告をするほか、感染症対策の講話を取り入れたり、避難訓練等と合わせて開催する工夫をしている。火災時の協力体制や事故防止など、参加者から意見をもらえる関係づくりがされ、日々の支援や災害に対する取組み強化に活かしている。管理者は普段の会議に利用者が参加し、意見交換ができることを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月、入居者、予約者状況を市役所の長寿介護課にメールしている。市役所からも文書にて情報が届き、不明な点は確認するようにしている。ボランティア状況も実績を知らせるとともに毎年、依頼している。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、意見交換をしている。市長寿介護課にはメールで入居状況や待ち状況などを毎月報告している。また、市ボランティアセンターには3か月に1回ボランティアの参加状況を報告している。さらに、市の徘徊ネットワークに参加し、協力をするなど関係機関との連携づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で何が身体拘束になるのかを確認し、やむおえない場合は、最小限になるようにしている。家族の了解をもらい、必要でなくなった場合は、早急に解除している。(現在は身体拘束なし)	
			(外部評価) 以前は衣類やおむつを脱いでしまう利用者がいたため、夜間のみつなぎ服を着用してもらうことがあったが現在はいない。身体拘束や虐待に関する研修会に参加し、職員へ伝達研修を行い、正しい理解に努めている。スピーチロックについては職員から意見を出し合い、気をつけた声かけなどを行っている。気になる行為や言葉づかいがある場合は、管理者等が個別に指導している。また、身体拘束排除マニュアルを作成し、拘束をしない事業所づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<b>(自己評価)</b> 研修会に参加した者から内容を他の職員に伝え、知識の向上、共有に努めている。利用者様の身体観察に努め、気になる点があれば、話し合い、改善に努めている。管理者は、普段から職員の悩みや不満を聞き、相談にのる等努めており、虐待に繋がらないよう気をつけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<b>(自己評価)</b> 研修会に参加した者から内容を他の職員に伝え、知識の向上、共有に努めている。現在、独居の利用者様1名あり。遠縁はいるが、本人と当事業所にすべて任せるとの事。本人の希望通り、弁護士を立て、今後について話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<b>(自己評価)</b> 契約時には、利用者様と家族に契約書に沿って説明し、不安や疑問がないか確認をしている。十分、納得、同意の上、書面上により契約手続きを行っている。利用中に内容の変更があれば、その都度、変更内容と理由を説明し、理解の上、書面にて同意をとっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<b>(自己評価)</b> 地域運営推進会議、家族会、イベント、面会等の機会には、家族や外部の方と交流を持ち、意見を頂いている。閉鎖的にならず、より多くの方が気軽に来訪できるよう努めている。日々の生活の中でも、利用者様に困っている事、不安に思っている事がないか尋ねている。玄関に設置している意見箱も活用している。 <b>(外部評価)</b> 家族会があり、行事などがある場合には全員に呼びかけ、夏の夕涼み会には5名の参加があり、楽しみながら交流をしている。家族会や運営推進会議等の訪問時に、職員から声をかけて家族から意見を聞く努力を重ねている。毎月事業所便りに職員が手書きのお便りを添えて家族に送付し、利用者の近況を知らせている。また、意見箱があり、お礼の手紙が入っていたこともあった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は管理者会議の前には、必ず全職員に意見や提案を聞き、改善に向けている。必要時には職員の個別面談を設け、意見等を聞いている。毎日2回の申し送り時には、職員の意見、提案が良く聞かれる。管理者は、職員が自由に意見が出せれる雰囲気作りを大切にしている。  (外部評価) 職員の要望や意見は、月1回開催される管理者会議に報告して検討しており、その結果は管理者間連絡ノートや事務連絡ノートで伝達されている。伝達ノートの確認は、印鑑を押印することで、伝え漏れがないよう工夫している。本社の職員が定期的に訪れ、気軽に相談できる体制も作られている。また、職員の入社時には1か月かけて指導し、事業所等の研修に参加するなど、資質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 本社より、ほぼ毎日現場に入り管理者や職員の勤務状況を見て、個々の努力、実績を把握している。職員が提出した報告書や自己評価から個々の能力を把握している。資格の有無にかかわらず昇格できる体制や、評価された者に手当の支給あり。職員のやりがい・向上心を持って働ける環境である。時間外手当の見直しあり。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 協力医療機関との連携で、医療に関する勉強会が多く行われた。なるべく違う職員が参加し、知識の向上に努めた。1ヵ月間の社内相互研修が行われ、参加した職員との互いの事業所のレベルアップが図られた。今後も継続予定である。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) GH協議会、ケアマネ協議会に加入し、研修会や行事には参加・交流を図っている。代表者は、社内3事業所の管理者と連携を密に取り合い、サービスの品の向上に繋げている。他事業所との相互研修に2名参加の機会あり。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前アセスメントで、なるべく多く情報収集をし、今までの生活となるべく環境変化が無いよう努めている。出来るだけ多くの時間をかけ、本人の気持ちに寄り添うよう支援している。家族の協力を得て、本人に不安や不満が無いよう、共に支援していく姿勢をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ケアマネ・家族・本人からの情報を直接会って話を聞いたうえで、要望を聞き、安心して利用していただけるように配慮している。利用料金・重要事項等、詳しく説明し同意を得ている。初期の信頼関係づくりを大切にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時もまず、1週間のショートステイを利用して頂き、本人・家族に納得をしていただいた後、入居するようにしている。ショートステイ中の様子を報告し、家族に納得していただいている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自分で出来る事が、少しでも長く続くようにADLが下がらない様に、一緒に生活をしながら、やる気を持って生き活きと過ごしていただける様に心がけている。できた事に関して、必ず褒めたり感謝の言葉等をかけるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面接時、温かい雰囲気の中で過ごせるよう、環境を整えている。日々の様子を伝え、家族に安心して頂くと共に、同じ目標を持って本人と接するようにしている。当事業所に妻、他GHに夫が入居している利用者様あり。行事やイベントの時、会える機会を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所への買い物の継続、地区の行事や敬老会に参加し、自宅への外泊・支援により少しでも、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所と、本人との付き合いが続けられる様努めている。他GHやデイケアとの交流が継続され、馴染みの人との関係が続いている。	
			(外部評価) 公民館行事や敬老会、文化祭、運動会に参加するなど、地域とのつながりが十分にできている。近隣のスーパーに出かけ知人や友人と会うことも多く、近所の方々や知人の訪問時も快く対応している。利用者の知り合いが木の実を持って来てくれたり、地域の老人会長が月2回程度訪問され、利用者との会話を楽しんでいる。また、身寄りのない利用者と一緒に、お墓参りに行ったこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は、常に周りに目を配り仕事をしている。その中で、孤立せず利用者様同士が関わり合い、支え合えるように配慮している。利用者様同士で違う立場や意見が生じた場合には、双方の意見を聞きながら、少しでも交流が出来るよう支援に努めている。他者との交流を好まない方には、スタッフと1対1の時間を多く取っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院した場合、必ず見舞いに行き、状態把握に努めている。又、本人や家族からの相談にも応じる様にしている。利用者様が死亡し契約が終了した時は、通夜・葬儀に参列、四十九日には、花を送り家族との関係、支援に努めた。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、コミュニケーションを多く取り、一人一人の思いや、暮らし方の希望を把握している。会話が困難な利用者様の場合は、その人の言動を見逃さず、家族に伝え、相談し、本人本位の方向へ向かうよう支援している。面会がないと不安になる方には、その都度、家族へ連絡し、状況説明をして安心して頂いている。 (外部評価) 日々の暮らしの中で利用者へ寄り添いながら、センター方式を部分的に活用し、今までの暮らしや思いを把握するようにしている。利用者や居室などで1対1となる場合に、思いを話されることが多い。利用者本人の言動を日々の記録に残し、伝達ノートを活用して、職員間での情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のシート活用により、本人や家族に聞きながら、把握に努めている。入居後の面会時には、なるべく多くの方から本人の生活歴やサービス利用にいたった経過等をプライバシーに配慮しながら情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式のシートの活用により、利用者様の思いを色々な方向から情報収集し、本人の望む1日の過ごし方に近づける様支援している。日々の生活の中で、野菜の皮むき・洗濯物たたみ・塗り絵・写字・歌等できる事の場の提供を行い、有する力の維持や新たな発見に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人がより良く暮らす為に、定期的に看護師・介護者を含めて担当者がカンファレンスを開いている。医療面・介護面・本人や家族の要望等の課題を話し合い、意見を反映し、ケアマネが介護計画を作成している。本人の状態が変化したり、退院後にも見直している。ケアプランには、本人・家族に説明後、同意を得ている。  (外部評価) 情報共有ノートや個人別ノートを活用し利用者の状況把握に努め、利用者や家族の意見を反映して介護計画を作成している。利用者1人につき2名の担当職員がおり、3か月に1回モニタリングを行っている。参加できない職員にも意見を聞いてもらい、6か月に1回日勤の職員でカンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。介護計画への家族の意見は、「お願いします」程度の意見が多い状況である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の日々の記録カルテに、利用者の状況・活動等記入し、職員間で情報が共有できるようにしている。記録カルテには、具体的な介護計画に添って、実践できればチェックを入れるようにしている。また、次の介護計画の見直しにも活かされている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 認知症対応型通所利用者1日3名まで受けている。現在に利用は1名だが、体調不良の為休んでいる。本人、家族の意向をケアマネと連携し、問題に対応している。地域住民のボランティア活動が盛んに行われ、利用者様の生きがいや楽しみになっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 定期的な地域運営推進会議では、地域住民・家族・民生委員等の意見を参考にして繋がりを大切にしている。園芸セラピー・傾聴・写真展示・紙芝居・歌や踊り等のボランティア活動が多く、交流を楽しむ事が出来ている。地域の理髪店や介護相談員の来訪あり。年2回の消防避難訓練では、伊予消防署の協力あり。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居前のかかりつけ医院との関係を大切にしている。入居 後、こんどうクリニック・笠置記念病院・いよ整形外科・砥 部病院・たきぐち歯科の協力医療機関があり、本人・家族が 希望する病院に受診出来る様、情報を提供、支援している。 宇都宮皮膚科往診・新歯科の訪問歯科がある。こんどうクリ ニックの定期的な訪問診療も行っている。</p> <p>(外部評価) 入居時に利用者や家族の希望するかかりつけ医を選ぶことが でき、入居後に家族の希望で変わることもある。家族の受診 介助を基本としているが、都合がつかない場合には職員が同 行する場合もある。協力医と連携が取れており、ほぼ毎日往 診して健康管理をしているほか、週2回歯科の往診があるな ど、利用者や家族には安心感がある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) バイタル測定を1日1回、必要に応じて2回行っている。ま た、食事・水分量・排便の記録を取っている。早期発見に努 めて、異常が見られたら看護師と相談し、主治医に連絡を 行っている。スタッフ・看護師間で情報共有ノートに記入 し、医療面・訪問看護面・居宅管理指導面で情報を共有して いる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、それまでの本人の状態やADLを医療機関に情 報提供している。定期的に見舞いに行き、その後の状態や情 報収集をしている。その都度、主治医や家族と連携を取り情 報の共有に努めている。退院時には、必要に応じて退院時共 同指導をし、医療機関から情報提供を受け、より良い介護支 援が出来る様にしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や終末期のあり方は、本人の病状・状態を家族に説明 し、本院・家族の希望を確認しながら、なるべく希望に添え るようになっている。段階ごとに本人・家族に意向の変化や方 向性の確認をしている。終末期には、主治医・ホームの看護 師・職員に連絡が出来る様、24時間体制が取れる様にして いる。看取り希望の方1名あり。</p> <p>(外部評価) 今までに2名の看取りを経験している。家族の希望がある場 合には同意を得て実施しており、家族と密接に話し合いなが ら付き添いなどの協力をお願いして看取りを行っている。2 名の看護職員がいるほか、協力医の看護師の協力が得られ、 職員は安心して対応することができる。また、「重度化及び 看取りに関する指針」を作成し、職員研修も実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定や日々の観察により、異常の早期発見に努めている。また、かかりつけ医院で行われる勉強会にも参加し、説明・報告書を出している。応急手当などは、看護師による指導や指示に従い定期的に行っている。消防署と地域で開催された救命・救急訓練に参加し勉強した。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 伊予消防署の立会いの下、年2回の避難訓練を行っている。今年は、初めて入居者にも実施日を伝えず、実際に起こりうる状況で行った。近隣の方々の参加も増え、消防員指導の下、消火訓練等も行い勉強している。「南海トラフ地震防災規定」を作成し、いざという時の為に訓練している。  (外部評価) ハザードマップなどを備え、年2回の避難訓練を運営推進会議と合わせて実施する工夫をしている。避難訓練には近所の方々にも参加してもらい、利用者の見守りやアドバイスももらっている。職員の緊急連絡網を作成し、近所の方々にも連絡できる体制づくりをしている。抜き打ちの避難訓練を実施するなど防災に対する職員の意識は高い。食料や水などの備蓄品を3日分用意している。また、会社に対して、避難経路にスロープの設置を要望している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様との接し方については、全職員が日頃から利用者様に対して尊敬の気持ちを持って接する様努めている。日頃より管理者から接遇の指導がある。入浴やトイレなどは特にプライバシーに配慮し、日々介護を行っている。個人を尊重し、本人の意思確認をしてから、ケアにあたる様心がけている。  (外部評価) オムツ交換や入浴介助時には、必ず戸を閉めて見えないように配慮し、トイレの声かけも肩を軽く叩き、小声で誘導をする配慮をしている。また、洗面所と脱衣所の間をカーテンで仕切り、見えないよう配慮している。日々の関わりにおいては、利用者を人生の先輩として尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の言動や表情に注意し、何を希望しているかを把握し、希望に添える様にしている。選択肢のある場合は、自己決定して頂ける様にし、遠慮がちな性格な方には普段よりコミュニケーションを取り、言いやすい雰囲気を出せる様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎朝の健康体操や、レクレーションへの参加等無理に勧めず、本人の意思に任せている。作業等を手伝って頂く時も本人の意気持を大切にしている。なるべく多くの利用者様に参加し楽しんで頂ける様に、日にちや時間をずらすなど工夫し、なるべく希望に添える様支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時、入浴時等洋服を自ら選んで頂くようにしている。選択の困難な方は、スタッフと一緒に選んでいる。2か月に1回の散髪、毛染め他、毎日の整髪・髭剃り等身だしなみに心がけ、その人らしいお洒落が出来る様支援し、外出時には希望を聞きながら、特に時間をかけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の皮むき・配膳の準備・盛付け・食後の食器洗い・テーブル拭き等出来る方は、普段からしていただいている。食材も利用者様一人一人に合わせた、食べやすい大きさにカットしたり、献立を一部変更したりしている。盛付けにも注意し、食べやすい様に工夫している。利用者様とスタッフが一緒に食事の片づけをしている。 (外部評価) 食事メニューと食材は外部業者に依頼し、事業所のキッチンで利用者に皮むきなどを手伝ってもらいながら職員が調理している。普通食以外に刻みやミキサー食にも対応し、利用者と職員が同じテーブルで会話しながら食事を楽しんでいる。また、食器の準備や後片付けなどを利用者にも手伝ってもらうなど、一緒に行うことを心かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の状態に合わせ、粥・キザミ・ミキサー食にしたたり、調理方法変える等工夫して、少しでも多く摂取できるよう配慮している。摂取量の少ない方には、定期的にエンシュアやラコールを飲んで頂いている。飲み込みの悪い方には、トロミを利用し水分補給に気を付けている。全員一日の水分量チェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後自分で行える方には、声掛け・セッティングを行っている。自分で行えない方にも声掛けにより、口を開けてもらうなど、少しでも出来る事をしてもらっている。常に口腔内の清潔を心掛けている。訪問歯科による口腔ケア実施が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) その時の状態に合わせ、なるべくオムツをしないでトイレで排泄ができるよう支援している。一人で出来ない方は排泄リズムを把握し、定期的に誘導を行っているが、トイレ動作の中で移乗やズボンの上げ下げ、手洗い等できる事を勧めている。放尿のある方に対して、部屋の配置換えを行い、Pトイレを置くことで改善された。</p> <p>(外部評価) 排泄のパターンは日々記録して見やすく工夫されている。日中はトイレに誘導し、排泄の自立に向けた取り組みに力を入れている。状態に合わせて、夜間にはポータブルトイレを使用する利用者が3名いる。立位が取れない利用者にも、2人体制でトイレへ移乗し、できる限り自立した排泄を支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎日の排便の有無・状態を確認・記録している。便秘時には、バナナやヨーグルト等を摂取して頂いている。必要時には、主治医や看護師に相談し、頓服の便秘薬を服用したり、薬の見直しを行っている。運動や腹部マッサージにも気をつけている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 週に2回、入浴の日を設け、利用者様の希望に添って、入浴・シャワー浴・清拭に切り替えている。又、体調不良の方でも、希望があれば清拭や足浴など行っている。希望に応じて同性介助にしたり、入浴剤を好みの物を選んで頂く等くつろいで入浴を楽しめるよう配慮している。入浴日以外にも、洗髪の希望に応じている。</p> <p>(外部評価) 各ユニット毎に浴室はあり、週2回入浴できるよう支援している。便で汚れた場合など、必要に応じてシャワー浴を活用している。入浴を嫌う利用者には、声かけやタイミングなどを工夫しながら入浴を勧めている。また、浴槽には3種類の入浴剤を選んで入れることができ、入浴を楽しめるよう工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間の就寝時間の他に、本人の希望や体調を見ながら、日中に臥床の時間を取り入れている。又、利用者様がゆっくり休息や睡眠がとれるように照明や温度調節に気を配っている。臥床時の入り口の開閉は、本人の希望に応じている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の活用により、薬の知識を増やしている。看護師が配薬を行い、適切に内服できているかスタッフ全員で確認し記録を付けている。本人の状態変化を主治医に報告し、必要に応じて薬の見直しがある。日常の記録をもとに内服困難な場合は、粉碎にする等、薬局への相談もしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に合わせて、野菜の皮むき・食事のセッティング・洗濯物たたみや干し・チラシでゴミ箱折り等を勧めている。それぞれの役割が出来ている。気分転換に中庭で日光浴・近所へ散歩・ドライブにも出掛けている。喫煙は、所定の場所で自由に出来る。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じとれる様に、花見物・神社への散歩やドライブに出掛けている。毎年、楽しみにしている地区の敬老会に参加した者あり。 家族の協力を得ながら、帰宅・外食・買い物・ドライブ・墓参り等、本人の希望を叶えることが出来た。 (外部評価) 天気の良い日は庭で日光浴をしているほか、週2回ドライブに出かけており、外出する機会が多い。参拝や花見、初詣、農業祭、ふれあい作品展など多様な場所に出かけられるよう支援している。最近利用者全員で外出し食事をするなど、大掛かりな外出は少なくなっているが、夏祭りや花火の見物などはボランティアに協力してもらうことも多く、利用者と一緒に楽しんでいる。	利用者の重度化に伴い、行事を縮小化する場合があるが、事業所の行事などの質を高めるためにも、ボランティアの協力を得て、利用者全員と一緒に花見などができる外出行事等の実現を望みたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分自身で買い物される方は、現金を所持し、好きな物を買える様、買い物に付き添っている。家族管理の為、所持金がなく不安に思っている方には、立て替えで必要な物を買えることを説明し、安心して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を利用できる方は、居室から自由に自分でかけられる様支援している。電話使用が困難であったり、難聴の方でも、希望があれば取り次ぎをしている。年賀状のやり取りを行っている。また、家族からの手紙は、必要に応じて代読し伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎朝の清掃はもちろん、机の整理整頓や、トイレの汚れが無いよう特に気を付けている。居室の温度・湿度に気を付けている。また、利用者様が集まるホールには、一緒に作った季節感のある掲示物を貼り、利用者様に楽しんで頂いている。玄関には、季節の花や風物詩を飾っている。必要時、天窓を開放し居心地よく過ごしている。</p> <p>(外部評価) 平屋建ての事業所には天窓があり、光や外気を取り込む工夫をしている。クリスマスの飾りやいろいろな絵画等が豊富に飾られ、季節を感じることができる。玄関の写真は、近隣の愛好家が季節毎の風景を貼りかえてくれている。共用スペースにはソファが置かれているほか畳スペースもあり、くつろげる雰囲気となっている。日中、利用者は共有スペースや居室で自由気ままに過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 話の合う方同士には、椅子の配置換えを行い、会話や交流を楽しんで頂いている。ホールには、一人用椅子・畳腰掛があり、その日の気分で自由に過ごせるよう配慮している。玄関には、長椅子がある。天気の良い日には、玄関先に椅子を用意し、思い思いに使用して頂いている。喫煙者には、専用場所あり。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居後も本人が必要とする馴染みの物を持参して頂いている。仏壇・冷蔵庫・テレビ・ドレッサー・椅子・飾り棚等、自宅にいた時となるべく同じ生活が出来るようにしている。好みに合わせて、家族の写真や製作物を飾っている。本人の希望により、部屋の模様替えを行った利用者様1名あり。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコン、電動ベッド、整理ダンス、ロッカーが備え付けられている。利用者自身の使い慣れたダンスや鏡台、アルバムなどを持ち込み、好みのポスターや絵画などを貼り、過ごしやすい空間づくりがされている。居室を職員と一緒に掃除する利用者もいる。また、各居室には電話もあるが、使用できる利用者は少ない。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 野菜の皮むき・食器の準備・盛付け・食後の食器洗い・テーブル拭き等が無理なくできるよう、椅子やテーブルを用意している。自室が分かる様に名札をつけたり、ダンスの整理ができる様、貼り紙をする工夫をしている。トイレや洗濯機の使い方の貼り紙あり。</p>	